

樟木館日和

しゅもくかんびより◆第二十三号



発行日:2021年3月31日

発行:文化のみち樟木館

指定管理者:特定非営利活動法人樟木俱楽部



1993年撮影



現在(2020年12月～2021年3月:コンクリート解改修時)

現在の樟木館の門は、石柱から鉄格子の門扉が取り付けられていますが、かつては、「堀重門(へいじゅうもん)」形式で、現在の石柱よりも内側にもう1組の花崗岩の石柱があり、そこから両開きの木製の扉がついていました。(2面「樟木館の門」より)

門と屏
樟木館の

「樟木館の門」

NPO法人樟木俱楽部理事
伊藤喜雄



屏重門の頃の樟木館



入口から見て右側石柱の裏側。潜り戸用金具の痕跡が上下二か所に見られる。

この門構えは、やがて敷地内に車が入れるよう入口を広げるため、鉄格子の門扉を取り付ける際に、外側の石柱を残して撤去されました。現在も鉄格子の門扉を支え続けるその石柱には、当時の潜り戸を取り付けた跡と思われる痕跡(写真④)を今なお見ることができます。

取り付けられていますが、かつては、「^{※1}屏重門(へいじゅうもん)」形式で、現在の石柱よりも内側にもう1組の花崗岩の石柱があり、そこから両開きの木製の扉がついていました。石柱(写真①)は、壁でつながっており、入口から見て右側の壁には潜り戸(写真②)の青い扉)が設けられていました。この潜り戸は、来客を迎えるための正門に対し、門衛や御用聞きの出入口として使われていたと思われます。

この門構えは、やがて敷地内に車が入れるよう入口を広げるため、鉄格子の門扉を取り付ける際に、外側の石柱を残して撤去されました。現在も鉄格子の門扉を支え続けるその石柱には、当時の潜り戸を取り付けた跡と思われる痕跡(写真④)を今なお見ることができます。

また、右側の日本瓦の屋根(写真③)は、「^{※2}門衛所(もんえいじょ)」です。この建物は平成7年(1995年)に取り壊されました。門衛所として使用されたらは、住み込みで働いていた井元商店の従業員が使用していたと言われています。屏の右端には、家族や従業員の出入りに使用したと思われる入口がありました。この入口跡は、令和3年(2021年3月)に完成了新しいコンクリート屏にも残されていますので、樟木館にお越しの際はぜひご覧ください。



工事後の門と屏(2009年開館時)

※1 「屏重門」…一本の柱と門扉から冠木(かぶき)のない日本の伝統的な門構え
※2 「門衛所」…正門の開閉や来客、出入りする人を管理するために配置された守衛を門衛といい、その門衛の詰め所のこと

樟木館の敷地内にある
そのほかの堀や門を紹介します。

門と堀 いろいろ

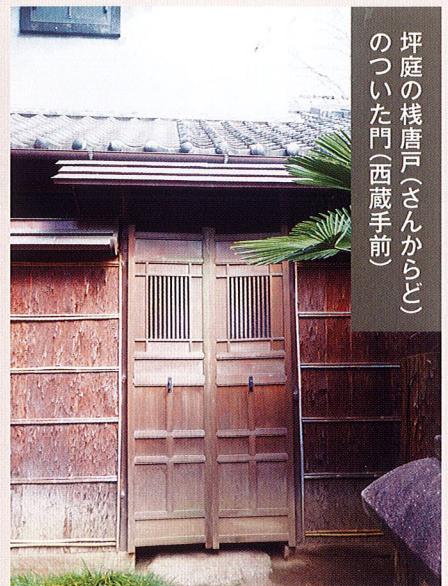


和館玄関入り口に通じるアーチ門。

アーチの形状に合わせて洋館の窓台と同じスクラッチタイルが貼られています。



2012年に、敷地西側の堀は
モルタル堀から現在の竹垣風の
フェンスに取り換えられました。
庭園・茶室から西蔵まで
通じています。



和室1北側の坪庭と西蔵手前にある、
檜の皮の貼られた屏に付く上部透かし
桟唐戸(さんからうど)。
桟唐戸とは、框(かまち)の枠の中に縦と横に
桟を組み、その間に鏡板と呼ばれる板を
はめたもので、現代の洋風の木製ドアとしても
一般住宅など使われ、框戸(かまちど)とも
呼ばれています。

文化のみち樟木館では、館主催イベントを
はじめ、貸室利用によるイベントを
年間通しておこなっています。
当館では和室・洋室・茶室・蔵・庭を
お貸しします。詳しくは下記の電話番号、
ホームページをご覧ください。



10/15(木)~27(火)
伊勢型紙×
春夏秋冬展



11/23(月祝)
秋の蓄音機
コンサート
in 樟木館



10月～12月
(毎月第二日曜日)
親子で楽しむ
絵本読み聞かせ

11/7(土)～15(日)
ふれあくなる
布展

令和2年度 催し物暦
(10月～3月)